

# 試 験 地 設 定

区分 任意

日田 営林署

(様式1) 湿地帯の更新技術について

開発課題	(落羽松を利用した国有林内湿地地の有効利用)				期間	自56年度 至75年度
開発目的	為霜小石原を大部分は、除地して湿地帯を250haに現存は森林としての利用価値が低いとして、この地を落羽松を植栽した森林として育成し、これを試験地とする。					
設 定	場 所	営 林 署	担 当 区	国 有 林	林 小 班	
		日 田	小 石 原	畑ヶ尻	11. 15	
	数 量	面 積	数 量			
		0.12 ha	直挿 240本 美插 9本			
	設 定 年 月 日	昭和56年5月15日		終 了 年 月 日	昭和56年5月16日	
	担 当	営 林 局	計 画 課 技術開発係			
		営 林 署	総 務 課 造林係			
地況及び 気 象	標 高	方 位	傾 斜	基 岩	土 壤 型	土 性
	600	南	5°	砂岩	BF	推積土
	深 度	堅 密 度				地 位
	60cm以上	軟弱湿				スギ ヒノキ
						14

林 令	林 種	樹 種	混 交 率	胸 高 直 径	樹 高	材 積	本 数	相 対 照 度	下 層 植 生
								100	
設 定 前 の 施 業 経 緯	造林地の中の湿地帯であり無硬葉								
全 体 計 画	56	設 定	総務、地保、植付、挿付						
	57		保育(下刈)	活着試験	生長量調査				
	58		"	"	"				
	59		"	"	"				
	60		"	"	"				
	61		"	"	"				
	62		"	"	"				
	63		"	"	"				
	64		"	"	"				
	65		"	"	"				
	66		"	"	"				
	67		"	"	"				
	68		"	(除伐)	"				
	69		"	"	"				
	70		"	"	"				
	71		"	"	"				
	72		"	"	"				
	73		"	"	"				
	74		"	"	"				
	75		"	"	"				

- 記載要領
- 区分は指示、自主、任意課題別とする。
  - 全体計画欄は年度別、実施事項及び目標、また、林試等の指導関係を記入する。

# 試験地設定

区分 任意

日田 営林署

(様式2)

## 実施計画画

### 設定方法

小田原町内区部に除地としてある湿地帯に落羽松を植栽して  
森林として育成して行くのである。

1. 山引苗活着試験と挿木得苗試験

直挿と菜生苗のプロットに分ける。

直挿プロットを25に炭根促進剤使用分と未使用分に分ける。

2. 生長量調査

植栽後10年間毎年調査 其以後5年間調査

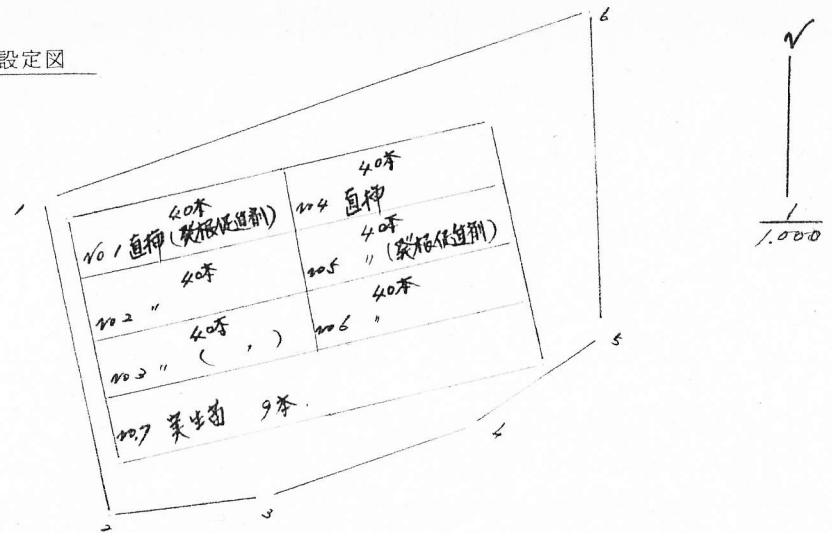
### 作業方法

直挿4所は各試験区に40本挿す

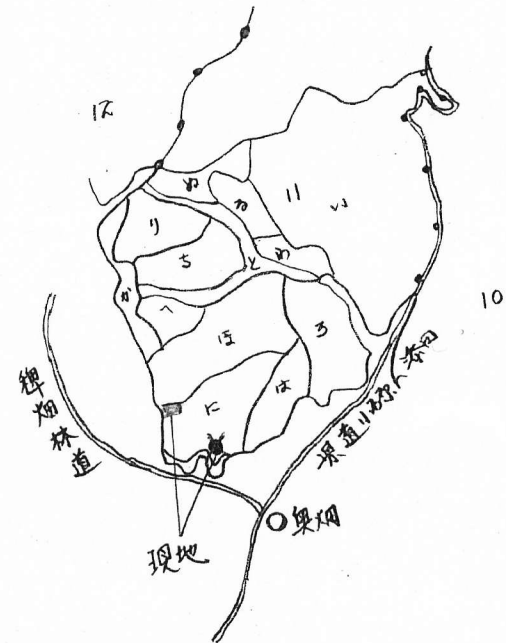
山引苗4所は普通植栽法を採用

保育作業には必要は造林作業と異なる。

試験設定図



試験地位置図



記載要領 1. 実施計画は設定方法及び作業方法等具体的に記入する。

# 試験経過記録

区分 任意

白田 営林署

(様式4)

昭和56年10月 種木得苗調査、活着率調査。  
 直挿し活着 0 山引苗 100% 活着  
 直挿しについては採穂時期を失っていた(5月採穂)にて全滅したかと思われる。  
 多湿な所では土壌の通気性が低く根腐れから道理が行かないから、簡易排水溝設置の必要がある。

昭和57年3月 林木育種場にて種木250本採取し、炭根促進剤に1昼夜浸し挿す。  
 簡易排水溝設置及穴を塞ぐ(穴の径2.5cm)

昭和57年7月 種木得苗調査。  
 直挿200本のうち96本については発芽しているものの炭根しているが不明 (3本掘取りの結果炭根付し山引苗2本枯死)

昭和57年10月 種木得苗調査、活着調査、生長量調査。  
 直挿し 全滅  
 山引苗 7本活着  
 生長量 平均長 平均長  
 21年続けた直挿しが失敗に終わったこと、多湿な所での直挿しは無理と判断される。今後の苗木養成のうえで行う(早稲農林高校の種木苗木養成の成功例あり)視察と実生苗の採取が必要

昭和58年7月 生長量調査  
 生長量 平均長 平均長  
 0.8cm 57cm

昭和58年10月 生長量調査  
 生長量 平均長 平均長  
 0.9cm 68cm

昭和59年10月 生長量調査  
 生長量 平均長 平均長 82cm  
 1.0cm

- 記載要領
1. 調査結果及び考察を記入する。
  2. 状況写真は別途整理する。

# 試験経過記録

区分 任意

日田 営林署

(様式4)

昭和6年10月 中長学調査見本者(州)  
水取量 平均値 1.5 cm  
水取量 最低値 1.07 cm

- 記載要領
1. 調査結果及び考察を記入する。
  2. 状況写真は別途整理する。

# 試験経過記録

区分 任意

日田 営林署

(様式 4)

## 美生苗成長量調査表

No.	昭和56年秋		56		57		58		59		60		61		62		63		64		65		70		75					
	植付時		1年目		2		3		4		5		6		7		8		9		10		15		20					
	径	長	径	長	径	長	径	長	径	長	径	長	径	長	径	長	径	長	径	長	径	長	径	長	径	長	径	長		
1	1.1	45	1.1	51	1.3	64	1.4	78	1.4	96	1.4	96	1.4	96																
2	0.8	41	0.8	46	0.9	54	0.9	66	1.0	83	1.0	83	1.0	83																
3	0.4	22	0.4	25	0.4	30	0.5	37	0.5	47	0.5	47	0.5	47																
4	0.5	33	0.5	37	0.5	44	0.6	54	0.6	68	0.6	68	0.6	68																
5	0.8	50	0.8	55	0.9	62	1.0	72	1.1	87	1.1	87	1.1	87																
6	0.7	38	枯損																											
7	0.7	54	0.7	61	0.9	73	1.0	82	1.1	95	1.1	95	1.1	95																
8	1.0	60	1.0	64	1.1	74	1.1	86	1.2	99	1.2	99	1.2	99																
9	0.5	27	枯損																											
計	6.7	320	5.3	327	6.0	401	6.5	475	6.9	576	7.0	576	7.0	576																
平均樹高	0.7	41	0.7	43	0.8	57	0.9	68	1.0	87	1.0	87	1.0	87																
根径			4.8	0.1	8.8	3.07	10.5	9.05	14.2	0.5	25.0																			

- 記載要領
1. 調査結果及び考察を記入する。
  2. 状況写真は別途整理する。

# 評価および普及計画

区分 任意

日田 営林署

(様式5)

昭和56年度の反省

1. 挿木得面試験が失敗した原因

1. 時期を失った (5月挿木)

2. 多湿場所では空気の流通が悪く、蒸着によるかびの発生

以上のことから翌年度は3月に挿木し簡易排水溝は岩土の上で行う予定

昭和57年度の反省

3月に挿木(有種場)し簡易排水溝作設、岩土(厚約15cm)をしたものの岩土の量が不足であったので多湿場所と同じ状態であったので全滅

以上2年間の試験から直挿は無理と判断される

今後は苗木養成を行い再度実行

昭和58年度の反省

山引角7本は生育しているものの上長肥大成長と悪い

(様式6)

(撮影 No. 61.4.)

# 状 況 写 真

区分 住 蔵

日 田 営 林 署

(全 景)



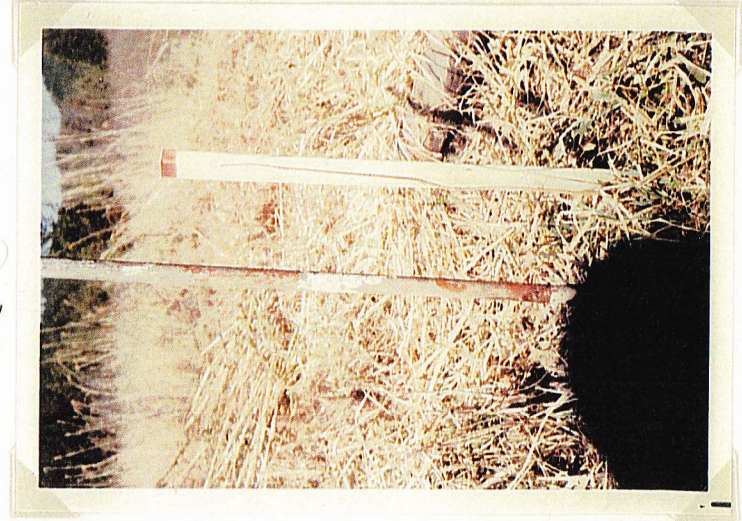
(No. 1)



(No. 2)



(No. 3)



状 況 写 真

区分 佐 野

日 田 営 林 署

( 様 式 6 )

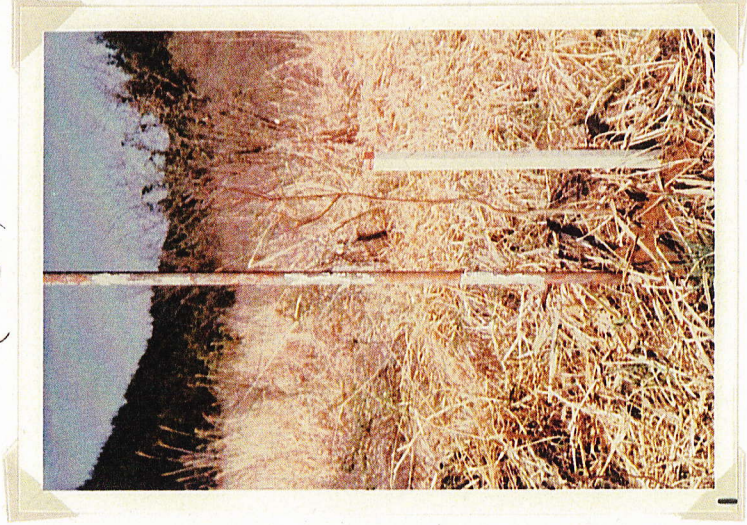
(No. 4)



(No. 5)



(No. 7)



(No. 8)





# 状 况 写 真

区分 任意

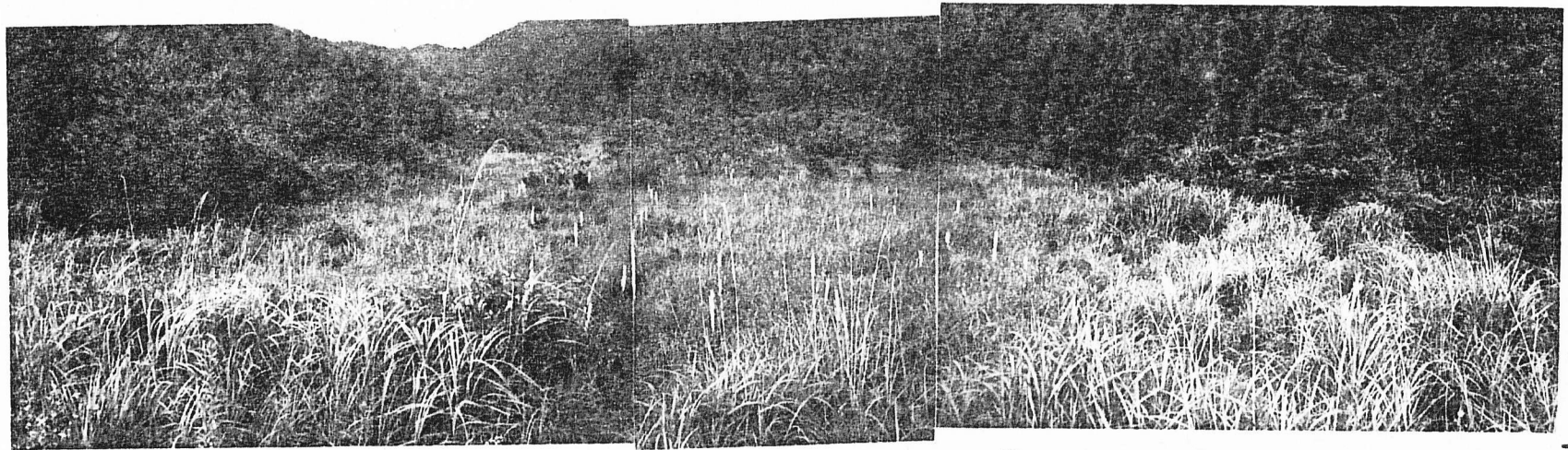
日田 営林署

(様式6)

栽培地 瑞竹 小石原担为巴都因

畑5畝团有林 1.12畝田班

面積 0.12畝



柳木 240本

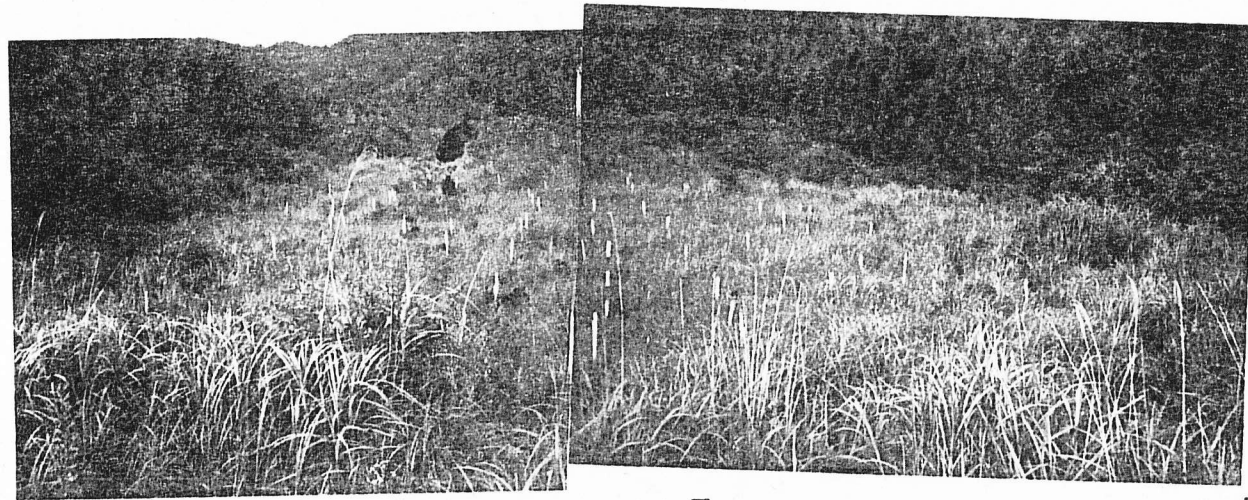
雑草 9本

状 況 写 真

区分 任意

日 田 營 林 署

( 様 式 6 )

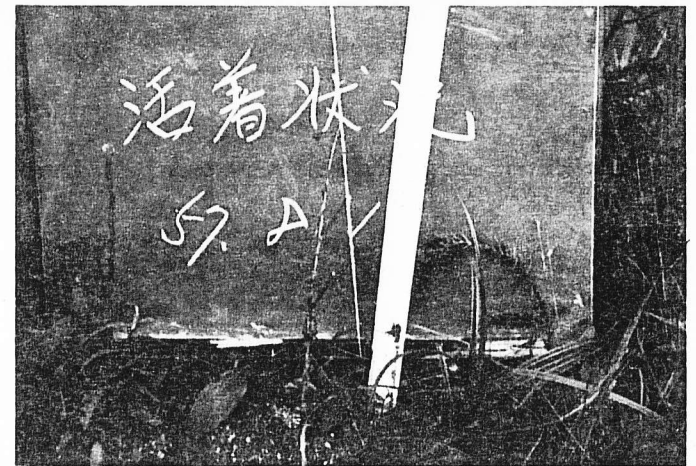
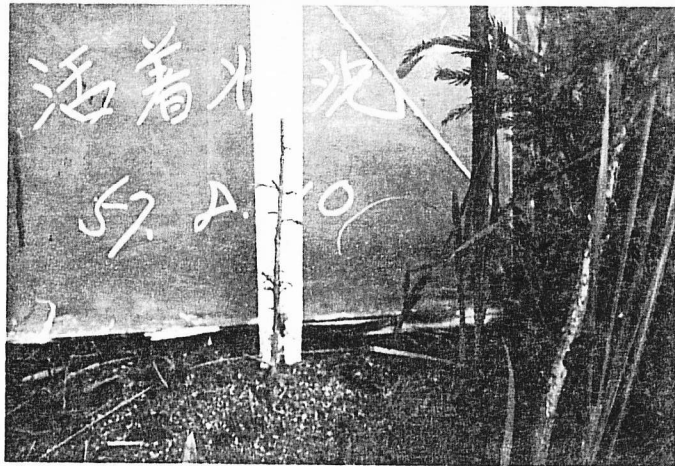


状 況 写 真

区分	任意
----	----

日田 営林署

(様式6)

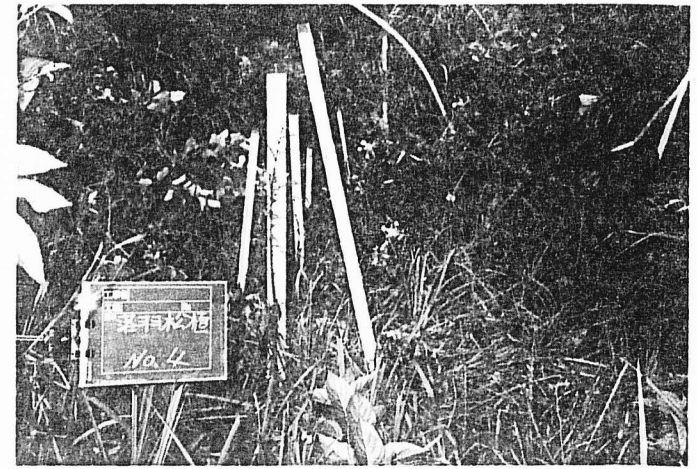
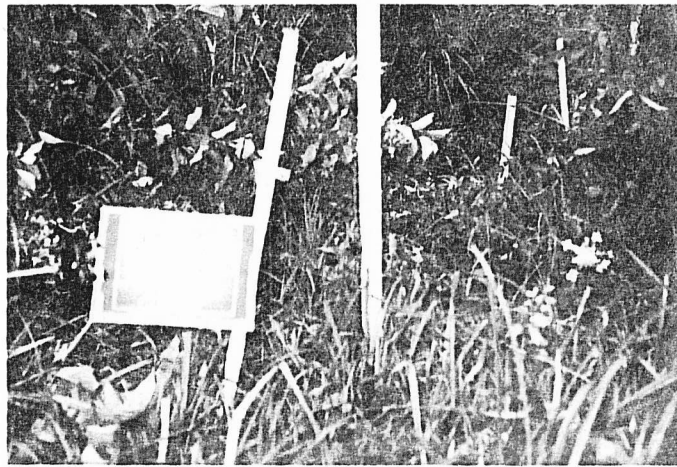
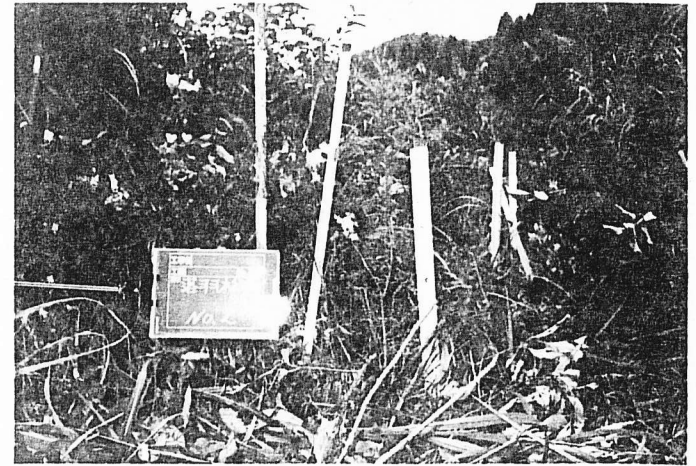
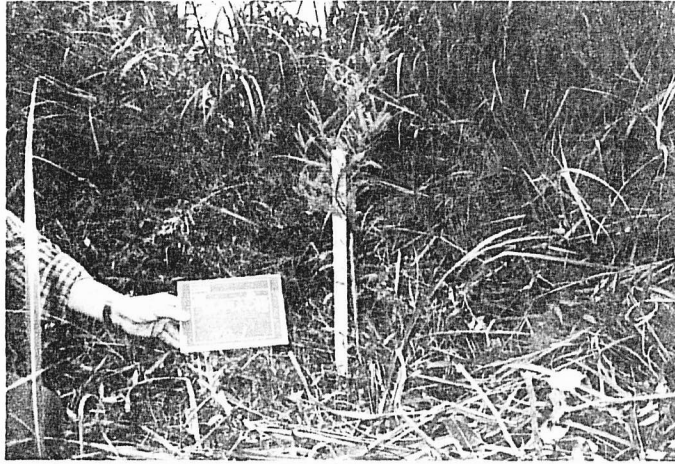


状 況 写 真

区分 任意

日田 営林署

( 様式 6 )

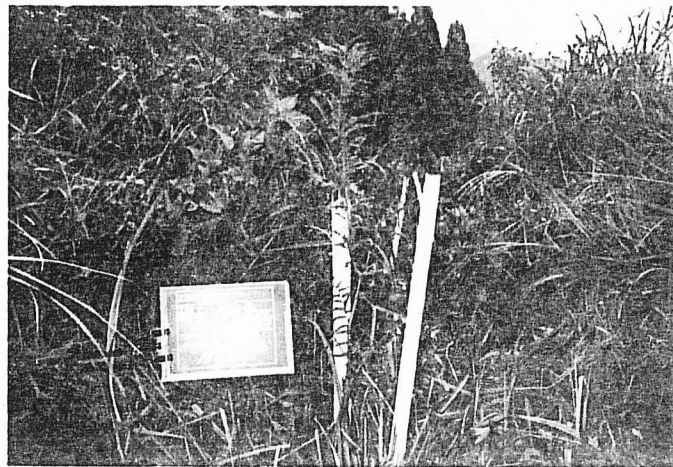


# 状 況 写 真

区 分	任 意
-----	-----

日 田 營 林 署

( 様 式 6 )





# 試験経過記録

区分 任意

日田 営林署

(様式4)

昭和56年10月 挿木得苗調査、活着率調査。  
 直挿し活着 0 山引苗 100% 活着  
 直挿しについて採根時期を失っていた(5月採根)にて全滅したかと思われる。  
 多湿な所では土壌の通気性が低いことから無理な挿木は避け、簡易排水溝及び表土の必要がある。

昭和57年3月 林木育種場にて穂木250本採取し 炭根促進剤に1昼夜浸し挿付  
 簡易排水溝作設 及 表土薬行 (表土の厚さ15cm)

昭和57年7月 挿木得苗調査。  
 直挿し200本のうち96本について発芽しているものの炭根しているが不明 (3本採取りの結果炭根付の山引苗2本枯死)

昭和57年10月 挿木得苗調査、活着調査、生長量調査。  
 直挿し 全滅  
 山引苗 7本活着  
 生長量 平均長 平均長  
 21年続けた直挿しが失敗に終わったため多湿な所の直挿しは無理と判断する。今後は苗木養成の方を果行  
 (甲斐農林高校に挿木苗木養成の成功例があり視察し薬生苗の採取が必要)

昭和58年7月 生長量調査  
 生長量 平均長 平均長  
 0.8cm 57cm

昭和58年10月 生長量調査  
 生長量 平均長 平均長  
 0.9cm 68cm

昭和59年10月 生長量調査  
 生長量 平均長 平均長 82cm

- 記載要領
1. 調査結果及び考察を記入する。
  2. 状況写真は別途整理する。